（昭和二年九月十九日第三種郵便物可認）　昭和十年六月八日　福總新聞　第百四十二號　（一）

福總新聞

（毎月　十日　廿五日）二回
定價　一部十錢壹ヶ月廿錢　郵税五厘
廣告料　雜報欄五十錢　場所指定十錢增
發行兼編輯印刷人　市島範三
福島縣平町研町十
發行所　福總新聞社

スクリは……
——平町五丁目
山野邊藥局へ

我等の信條と實踐

三箇の信條

一、皇國精神を深める事
二、世の爲め家の爲めに盡す事
三、眞心を以て物事に判斷する事

五箇の實踐

一、朝早く起きて神佛を拜む事
二、物を大切にし食物は頂いて食べる事
三、勤勞を喜び人の嫌ふ仕事は先に立て行く事
四、禮節と規律とを守る事
五、自分のことは自分でする事

◇東華感想錄（二）

宗教と哲學

天照大神や氏神を單に國民道德の對象なりとし、祖先崇拜の極致だと片附ける人々がある。之れは信仰無き學者の無難な解釋法でなければ、信仰無神論者の主張である。

之れが神國を平凡化するべき無智の誤謬だ。

× ×

神道を學問的に研究し組織立てようとすることは神道の生命を削るものではあるまいかと懸念する、學問するものは冷靜でなければならぬ之れを信仰しては眞の研究は出來ぬと云ふからである。元來神道を學問だ科學だと云ふ必要はない、從つて無理に西洋流の學問の枠に嵌め込む必要は更にないのだ。

× ×

近來宗教が復興して來たと云つてゐる。個人の行詰の打開や個人救濟利益中心を求める信仰であるならば名聞利慾他に追求する僧侶に乘ぜられるのであらう。

日本人の宗教は皇國興隆を主眼として起つたことを忘れてはならぬ。

× ×

人間が利巧振つて增長した結果科學萬能と言ひながら文明の行詰りとなつた人間の力で出來た世界でないと知ることが、神を知る初めである。

× ×

發電所から家毎に電流を通つてゐるやうに、ラヂオの電波が空間に送られてゐるように「神の光」は人々を照してゐる。然るに人々はスキッチも入れず受信器も備へつけないで暗い心持を嘆じてゐる。

土木請負界の新人
強口唯七郎君

君は常磐同業界の人材として、聲望隆々たり夙に實業界に志し請負業開始より流浪救にとして變化極めなき大海に於ける孤船の如く渺茫たる人生の航路に掉し天與の運命を開拓せんと奮鬪努力の歷史を織ると倶に一意專心業務に努む嚴寒身を徹するか如き眞冬炎熱燒く如き三伏云と雖も奬勵勤勉一日の倦怠なく孜々鋭々として其經營に沒頭し着實誠意を以て業に從事し多くの部下を慈しのみの情を以て指揮鞭韃に努む

君は復た頗る豪膽勇邁の意氣に當み如何なる逆境に遭遇すると雖も敢然として快力亂麻を處するの手腕力量の人である。

君は常に人に接しするか溫良主義を以てし多く語らず所謂不言實行の大人物である復た、公共事業に率先して心を致し、村政に奔走盡先年村民の多數の衆望を荷ひて村會議員に最高位を以て選ばれたり。

正義と義俠の人
大谷要次郎君

平町古鍛冶町に宏大なる店舗竝に大倉庫とを有し隆々たる米穀商を營みつゝある通稱志村米店主は則ち大谷要次郎君其人である。

天性慧敏にして而かも沈着少壯時代より既に有爲の氣溢る、商を以て身を立てんと志し鋭意熱心精勵以て家運の發展に努力す、君は不言實踐躬行の人格者である常に粗衣に身を纏ひ曉天の星を載く頃より幾多の店員を指揮督勵し而も嚴寒身を徹するが如き眞冬、炎熱燒くが如き日と雖も一意專心天職に努力して倦む事なく事業の向上發展に努む、商運旭日昇天の如く遂に今日の基礎を築くを得たり大膽にして小志の金言を拾てず、紙一枚と雖も粗末にせざるの勤儉貯蓄の信念の人にして、克く家を收める氏蓋し君の自治行政に如何なる活眼を保有せるかは如實に物語つてゐる。

今や著實堅忍不拔の天性は常磐請負界に大なる力を致すべき使命を有するものであらう。

君は濱三郡土木請負組合の幹部として業界の向上發展の爲め常に嶄新にして豊富なる抱負經倫を有し新人として同業者間に大なる歡迎を以て期待さるゝ未だ前途に幾多の春秋に富めり須らく自重自愛し以て健鬪せられん事を切に祈りて筆を擱く。

平在鄕軍人分會長
藤井一氏を訪れて

名分會長であつた。藤田榮助氏の後を享けて多數在鄕軍人多大の信望をかけられて今回平在鄕軍人分會長として輝々しい名譽の地位につい た藤井一氏を新川通りに添ふて青葉茂る庭園を前に同氏が最も心を込めた建築された未だ木の香床しい清楚にして宏壯なお宅を訪ふ。

折りよく藤井氏は庭園を逍遙されて居られたので刺を通ずると威嚴正しい面に微笑をさへ浮べ心よく居間へ案内された。正しき人の居實は其の人の全貌を物語るものであつて塵一つ止めぬ整頓さを示してゐる。

先づ挨拶も濟んだ處へ平婦人會の明星として才媛の聞へある婦人が所用から歸られて頗るいんぎんを極めた能度で茶果などを出してくれる、やがて記者は藤井氏について分團長として新任された御感想はとし訪ねる。藤井氏は平素より多くを語らざる不言實行の人である。雷一言

『軍人精神涵養としての眞精神に飽まで生かるといふ丈けをお答へするに過ぎぬ』

と云つただけである。記者は氏の云はれた事は簡單ではあるが此の簡單なる而かも熱のこもつた。氏の心から なる叫びによつて一曾軍人精神は涵養せられ斯る立派な堅志によつて大和魂といふ海外に類例なき此の尊い魂には愈々發揚されることをよく感じた、氏は大正六年一月一年志願兵として當時の若松卒五聯隊へ入隊大正十年四月拔群の成績により少尉に仕官された人で器正倶に備はりぬ名士として恥かしからぬ人格者で現平消防教官囑托の要職も擔ひ其の教養怠りなきことは平消防の動作がよく物語つてゐる。

原申八君鑛山經營不況なり時窃かに鹽米を送りて是或は慈善事業の如きには卒先して心を致し常に町内の親睦を圖り和氣靄に裡に溫容を以て人に接す、一見舊知の感をなさしむの人格者である。復た謙讓美德を保有する人にして先年研古區民より絶大なる支持の下に町會議員候補者として豫選されたるも固辭して相受ざりし事も君の美德の一端克く物語るものであらう。

君亦た日露役の戰に出征せる勇士として參加し滿洲の天地各所を轉戰千軍萬馬を馳突し勇敢に東北男子の本領を發揮し國民の大義を完ふし、其武勳により勳八等白色桐葉章を授けらる。

去る三月十日陸軍記念日意義ある老兵招待會には老兵會長木澤常松氏と倶に幾多の物資を寄贈し會の精神を透徹せしめたりと聞く、君は亦た人情に脆く彼の萩原申八君鑛山經營不況なり時窃かに鹽米を送りて是を支持せし美談など吾人は記憶す、

人情紙よりも薄き現代社會に君の如く正義に燃え義俠に富む紳商は自重自愛以て益々御健鬪を祈るものである。

堀江工業の總務
鈴木唯治君

我れ常に敬慕措く能はざりし、東北土木建築界の偉大なる人格者、江口忠一氏は忽然と黄泉の客と化せしの悲報に接し驚愕したのである。

天は無情であると呪ふても如き不撓の人を指す言葉であらう、思想圓滿にして淡論風發人と交るに胸間常に情明些さかの城壁を設けず一見舊知の感あらしむ、其の事に當るや熱心精意殆んと全身を盡して社業の隆昌に、支配人と從來江口を補佐し今日をあらしたる鈴木支配人ある吾人は大なる敬意を示するものである。

鈴木唯治氏は、天性慧敏にして沈着幼少の頃より學才非凡早く既に有爲の氣宇現る鄕校を出づるや、更に學を學びて今東西の春を涉し漢學と計數の蘊奥を極め夙に實業家たらんとして精勵大いに努む、人格高潔にして才幹優秀群を拔き明晰なる頭腦を以て新時代を利導するに足る、道理と信ずる所は如何なる巨候の前と雖も斷乎として邁進する雄々しき男性的人格者にして富貴も滔する能はず、貧賤も奪ふ能はずとは實に氏の

×以下二面へ……

——（表面より）——

發展に努め、故社長江口氏を補佐して茲に十余年其治績と功勞實に見るべきものがある而も嚴寒身を徹する如き眞冬炎熱燒くが如き日と雖も奮勵努力一日として倦むことなく朔風凜烈の眞冬を凌ぎて茲に艶陽爛漫の花あり烈日炎々の暑を忍びて茲に秋晴、豐穰の稻あり今や江口社長の故物を見て更に勇を鼓して若かき令息を指導し、後見役たる總務として昨日は北、今日は南と東奔西走の競爭場裡に奮闘し、堀江工業の百年計畫は製材と材木問屋としての規模大きく取引極めて盛大に行はれ亦た氏は正直溫厚の人にして材木問屋として業界に其存在地認められ信用日に增大されてゐるが令息も實直で評判が良い。

高階一郎氏と新坑開始
其成功を期待す

かつて不動澤炭礦鑛業所長として十二分の手腕を揮ひ幾多業界者より崇敬の的となりし、高階一郎氏は今回工夫を募集し前壽炭礦區を買收し去る四月一日より一ケ月少なくとも一千二百噸位の出炭のプランを樹て理想的經營に着手するとの由にて吾人は常に敬慕と絶大の信頼を持つ、高階氏が明日の大成を期すものと大に前途に祝福の辞を謹んで呈するものである。

高橋光山女史一門
紫山流の盤景陳列

石城政友會筆頭常任幹事中町々會議員として好評嘖々たる高橋龜松氏令夫人であり、池坊生花師匠光山女史は目下東京方面の上流家庭に最も流行し、且つ賞讃を受けつゝ紫山流盤景の宗家に就いて專心に學び、教授能の優秀さも好評を博して奥許の免許を得「光山」の名を授けられて以來平町地方の師匠となり、傳授してゐたが、高橋ウタ、吉田キミ、鈴本ヨネの三名に總傳逸見モト、立花ワカ、矢内シゲの三名に奥傳の許しを授けるの盛況で續々として入門者多數ある有樣だ去る四月中國防博が開催された時光山師の作品は勿論各紙の作品を會館内に陳列されて居たが一般から其技能の優秀さも好評を博してゐたと。

名區長の譽れ高き
長小次郎氏
信用日に增大

平町新川町長小次長氏は永年行政區長の要職にありて献身的努力を惜まぬ人である町内一般から信用ありて名區長の譽が高い、營業は製材と材木問屋としての規模大きく取引極めて盛大に行はれ亦た氏は正直溫厚の人にして材木問屋として業界に其存在地認められ信用日に增大されてゐるが令息も實直で評判が良い。

辯護士
門傳清吾氏

門傳氏は千葉氏の同郷、宮城縣の人、少年時代より一風變りの性格の持主である、明治大學專門部を出て直ちに檢判事の國家試驗に合格し、千葉地方裁判所に判事として名聲を博せし人である。

平町に開業せるは十四年一月頃であつた、權利の紳張や未法の廢除などに對しては何人も追隨を許さざる迄研究されたるは當に第一人者であらう、明確なる正論は常に斯界の雄たるを失はず、日を追ふと共に民衆の依頼と事務の倍されつゝあるは君が法曹界の覇者たるを立證するものであらう。同氏は在官時代には斗酒を辭さぬ酒豪たりしも昭和七年の秋の頃から大いに感ずる處あつて禁酒を斷行した禁酒後に於て酒の有害なる事に就て偉大なる發見をした由、趣味として義太夫竹本錦太夫に師事して大いに修養し亦た謠曲は觀世流で何れも堪能であると。

辯護士
千葉彦治氏

在平辯護士界の花形役者中央大學出身、石城政友會中宮城縣の人、少年時代より幹部町會議員にして公平なる識見と遠大なる理悲を持つ青年政治家である、在平宮城縣人會を組織し大に郷土人紹介問の爲めに熱を吐く人である。辯護士として多くの會社の顧問なり民衆法律家として絶大なる人氣と信望を一身に荷へつゝあり。

燦として永遠に輝くべき
新妻盛氏の功績

四倉町々長新妻盛氏を評するに當り劈頭名町長の三字を與へる事に於て誤る處がない、それは氏の今日迄なし來つた町治上の功績と併せて祖祐天上人其の儘なる氏の全貌が之れを悉く物語つてゐる。

而して現在の四倉港は漁港の修築水道の布設等の大事業の貫徹を期する上に水産事業の躍進を目睹とする企畫の港、唯一の事業たる漁業の愈々興隆に最善の努力を惜まず漁業一般關係者と堅き握手のもとに盡粹されてゐることは周知の事實である、茲に於てか四倉町民は此の識見力量と共もに充分なる名町民新妻氏の才腕に深く信倚し相扶け以つて將來の大四倉出現に至るべきことは燎原の火を見るが如くなるを信ずるものである。

元郡長正五位
水野虎三郎君

本縣安達郡二本松の名門家に生れ、天資溫良圓滿にして瀟洒の風采の人、博學達識の君子である。幼少より非凡な才能者の所有者に富むその賢才人格とは實に令兄故江口忠一氏を深く偲ぶものがある。令兄は本縣土木界否全國的にも隆名を馳せた人であるが此の兄にして此の弟ありで今や江口清氏の名はその事業の隆昌と相俟つて世間周知の的となつてゐる。必ずや氏の不斷の努力こそは益々その大をなすことゝならう。

寫眞師
中島孟氏

田町の中島寫眞館主で、優秀なる技術者である、平町に幾多の同業者ありと雖も同氏の如く親切丁寧で而も迅速に取扱つて呉れるので好評を博してゐる、入學用寫眞、花嫁、花婿の姿は多く同氏の技能によつて撮影さるゝものである、俟たら信用町内に於ても中老扱ひとして可なりの勢力を保持する點に於いて筆者は敬意を表して置く。

淺野英男氏

郡山無盡株式會社平出張所主任

淺野英雄氏は郡山無盡株式會社平出張所主任にして氏の誠實と努力は加入者益々增加の傾向あり、一般から信用を有し發展の課程を辿つてゐる。

好評と信望ある
織田歯科醫院

電話四一六番

平町南町に於ける歯科醫院でしられた織田豐太郎先生は其技術の優秀と患者に對する情味があるので信用を博してゐる。人格豐かな人にして一般人からの信望が深い。

此の兄にして之の弟あり
江口清氏の信望

堂々たるその風貌と識見に富むその賢才人格とは實に令兄故江口忠一氏を深く偲ぶものがある。令兄は本縣土木界否全國的にも隆名を馳せた人であるが此の兄にして此の弟ありで今や江口清氏の名はその事業の隆昌と相俟つて世間周知の的となつてゐる。必ずや氏の不斷の努力こそは益々その大をなすことゝならう。

設計事業の泰斗
鹽谷義雄氏の信望

清廉にして賢腕溫良にして亦氣魂に富む鹽谷義雄氏の名は土木建築設計界の明星として餘りにも知られてゐる。氏は今新綠滴るゝ新川道沿岸の清洒なる邸宅に在りて各方面の大小設計事業に忙殺されてゐるが、一見貴公子然たる氏の風貌は如何なる繁雜なる場合に處しても明敏なる頭腦の逝りに餘裕を示して餘りあるものゝ如く眉宇一つ動せざるがよくその全貌を遺憾なく物語つてゐる。尙氏は非常に溫情そのものゝ結晶とも云ふべき程の純情に富むだ人で、社會事業に對しても最も隱れたる貢献者であり亦一圓融合に志深き人格者であることが圓滿なる氏の家庭がよくこれを証據立てゝゐる。

肺患者の福音

郡醫師界の重、小名濱町久保田醫院主久保田貞氏は肺患治療の研究に志を懷き漸く斯病研究界の第一人者として有名な東京市中野荒井、前川雄氏に就て研讃怠りなかつたが遂にその療法を修得、從來郡内各所の患者にその療法を適用中であるが何れも効果頗るよく既に全治せるものも數名を算せられて居る由で、受療患者は一般に感激してゐる。氏の治療に對する体驗談の詳細は次號に掲載す。

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋
釜屋商店
磐城平町五丁目
電話九番・九九番
東京替振貯金口座一〇九五六